



# DJIレポート

No.136 20240630

## もっと考えよう！ 藤沢市文書館

国際資料研究所 小川千代子

### ▶藤沢市 OUR Project マスタープランと藤沢市文書館

機関(機関名)	責務(職務)
市長会	市民の文化活動の発展や市民生活、芸術、伝統的行事、様々な文化活動に果たすべき役割
市民センター	市民活動等による芸術作品の展示・発表を行うこと
アートスペース	文化芸術の創造、発展の拠点として、若手芸術家の活動を支援すること、市民等に芸術作品の制作、展示、発表、鑑賞等の機会を提供すること
市民活動推進課	総合市民活動センターとして活動。図書館一帯の提供のみならず、市民生活全般にわたるサービス提供を行うこと
文書課	行政文書や市民活動に関する資料について、収集、整理し、適切に保存、管理、利用等を行うこと
市民活動推進センター	市民活動の文化への理解を深めることを目的に、文化財、郷土資料、その他市民生活に活用可能な資料の収集・整理・活用を行うこと
青少年会	青少年の学習活動の推進、芸術等に関する活動の推進を行うこと
市民活動推進センター	市民活動に関する情報提供、市民活動推進センターの運営を支援すること、市民活動推進センターの設立を支援すること
生活支援課	市民生活の向上を図ること

※行政文書の保存、管理、利用等の業務については、後述のコンテンツリストに記載はありませんが、文書館の基幹業務として続きます。

藤沢市民会館建替にむけた『OUR Project マスタープラン\*（生活・文化拠点再整備基本計画）令和5年12月 藤沢市』(以下マスタープラン)は2023年12月付で決定となり、この中で行政文書の保存管理利用等は文書館の基幹業務として継続する旨が明記された。これを受けてか2024年4月の人事異動で、藤沢市文書館には専任の館長が再配置され、兼務だった館長はその任を解かれた。この人事からは、「藤沢市文書館を考える会」が2023年10月以来提唱した問題点

は一部是正された模様だ。

### ▶藤沢市文書館とは

昨年8-9月マスタープラン素案へのパブリックコメント募集では、文書館のありかたについて30通を超える意見が集中した。それは、専任館長の配置を求めただけのものではない。約50年前に、日本で最初の基礎自治体の文書館として設立された藤沢市文書館は、文書館界での知名度は非常に高い。また、藤沢市文書館は、その機能として行政文書の保管保存を行うなど、先進的な活動をしてきたことでも知られている。

藤沢市文書館が所蔵し、また将来その収集保管保存を継続していくべき藤沢市にまつわる文書館の資料の今後に関し、関係者はそれが藤沢市の誇り、藤沢の宝であることを指摘する。藤沢市民をはじめ多くの関係者により藤沢市にまつわる公文書や地域文書の、これから先も確かな収集保管保存提供を求めるとする関係者の思いが押し寄せたとみるべきであろう。

### ▶現行の藤沢市公文書管理条例は「理念条例」

東京新聞6月6日付朝刊には、某自治体文書館の公文書誤廃棄の記事が大きく取り上げられた。そこには、この自治体では公文書管理条例がないこと、職員に文書管理の意識を浸透させられなかったとする政策法務課の認識が記されている。公文書管理条例の有無は、実際の公文書管理実務遂行に大きく影響することがわかる。

幸いなことに藤沢市の場合は、公文書管理条例は2016年に制定されている。しかし、これは藤岡企画政策課長(23年10月当時)によれば、「理念条例」であるとい

### ▶藤沢市公文書管理条例、実施条例に改正へ

以上見てきたように、藤沢市の公文書管理は公文書管理条例があるとはいえ、十分な制度整備が行われているとは言えない。このことを踏まえ、藤沢市は、まずは理念条例といわれる公文書管理条例を見直し、具体的な公文書管理を行うための制度を整備する必要がある。現在の藤沢市公文書管理条例を全面的に改正し、実務を規定した実施条例を制定しなおす必要がある。実施条例としての公文書管理条例の整備のために、藤沢市は条例改正に取り組んでほしい。そのためには、あるべき藤沢市公文書管理条例改正について筆者としては、可能な限り具体的な提案を行いたい。

### ▶藤沢の宝、市民の誇りたる藤沢市文書館の確立を

文書館の施設面の不備については、さらに是正を要望しなければならない。特に、制度面の不備の是正の必要性は待たない。10年前に制定された「理念条例」ともいわれる藤沢市公文書管理条例は、本来的な実施条例として、公文書管理が確実に行われるべく、適切な改正を行う必要がある。そのために、藤沢市文書館を考える会は、公文書管理条例の改正案を提唱していきたい。また、現状の藤沢市文書館の建物は非常に手狭であり、現用公文書の管理のために外部民間倉庫を使っている現状がある。このための経費がどの程度のものなのかについては、把握の必要がある。

### ▶藤沢市の公文書管理条例の改正にむけて

前述の新聞記事は次のように結ばれていた。「東京都などの公文書管理委員会の委員で、弁護士の東洋大学法学部・早川和宏教授(行政法)は、「役人にとって、公文書は目の前の仕事のためのものであり、保存する意識や歴史になるかもしれないという認識は薄くなりがちだ。公文書を管理する条例を制定し、缶蓋・チェックの仕組みを作ることが必要だ」と話す。」この早川先生は、かつて藤沢市公文書管理条例案の策定に尽力された方だ。この時の条例案を今一度吟味し、藤沢市の公文書管理条例再整備を目指したい。筆者としては、あと1年くらいで、新公文書管理条例(案)を提示したいと考えている。

\*OUR Project は藤沢市が進めようとする Okuda Urban Renovation Project Master Plan の略称。藤沢市南藤沢の奥田公園地域の生活・文化拠点再整備基本計画をいう。計画は下記 URL: [ourproject\\_masterplan\\_202312.pdf \(city.fujisawa.kanagawa.jp\)](https://ourproject.masterplan.202312.pdf(city.fujisawa.kanagawa.jp))

### おもな内容

もっと考えよう！藤沢市文書館.....1  
散歩道 記録管理学会研究大会@広島/消息.....2

### DJIレポート No.136 20240630

文献/あしあと/活動.....3  
巻末随想①祖母の卒業証書②宮島の鹿他.....4

# 【アーキビストの散歩道】記録管理学会研究大会@広島

## 記録管理学会研究大会

期日:2024年5月25日(土)、26日(日)の2日間  
会場:広島大学東千田キャンパス東千田校舎A棟A501  
施設見学:5月25日午前中 広島県立文書館見学

### ■広島行を計画

記録管理学会研究大会に参加しようと思いついたのは、今年の春まだ浅いころだった。友人に誘われたから、久しぶりの記録管理学会だから、と高齢者の気軽さで旅を決めた。飛行機にする？それとも新幹線？うーん、飛行機がいいな。2泊3日旅行が決まった。

### ■大会参加申込はインターネット

記録管理学会研究大会の参加申込は、ネット経由となっていたので、これは割と簡単。でも、好事魔多し。旅行が始まる寸前に、参加費の金額を1000円ほど少なくとも振り込んだことに気付いた。もう1000円を振り込んだが、会計からの反応はない。インターネット振込は人間味がない。不安で、私は員数外なのかと感じた。結果は杞憂だったけど。

### ■大会前見学会@広島県立文書館

5月25日午前は広島県立文書館見学会で、宿舎からバスで会場に向かう。かつて何度も足を運んだ記憶ある場所だが、時の経過により建物も周辺の風景も随分変化していた。友人と二人、入口で記念写真を撮りまくる。内部も、書庫では写真撮りまくる。これなくして旅行の意義はあり得ない。

書庫内の換気空調の効果を確保するため、移動式書架の高さを天井下100cmくらいまでに変更中と説明があった。S館のカビ発生問題を思う。文書館施設建物と設備は、20年30年の時を経てようやくその瑕疵が見えるものなのだを知る。勉強になった。

### ■研究大会会場は広島大学東千田キャンパス

土曜日午前中は、広島県立文書館の見学が設定されていたので、宿舎からバスで見学先の広島県立文書館に行った。川のほとりの広島県立文書館をながめ、川風に吹かれて、とてもいい気持ち。見学終了後は徒歩で広島大学東千田キャンパスに移動した。15分位かな。

東千田キャンパスには、そこそこに原爆関連モニュメントがあると知らされた。他にもない、この東千田キャンパスというロケーションを記録管理学会研

究大会の会場に設定された現地担当の北浦康孝氏はじめ、関係者の配慮に頭が下がる。

### ■「レコ・マゼ」の役割再検討 基調講演

研究大会は土曜日の午後から始まった。冒頭基調講演2本は、米国ARMAの記録管理と日本のA社の記録管理。日本のA社の講演はカタカナ用語が少なく、PPT画面は「投影」と称するなど、日本語パンザイだった。カタカナ語に軸足がある米国事情説明に比べると、断然わかりやすい印象。この方に「アーカイブ」「アーキビスト」の日本語を考案していただけないかしらと真剣に思った。記録管理学会自身が「レコマネ」などと口走るようでは日本に「レコマネ」概念を根付かせるなど到底望めまい。「アーカイブ」「アーキビスト」また然り。前途洋々…というべきかな。

### ■平和記念公園・原爆ドーム・原爆資料館

広島といえば、やはり平和記念公園、原爆ドーム、原爆資料館を見なければ、という強い思いがある。原爆ドームは1958年ごろに一度、取壊しが取沙汰されたことがあった。子供心に、それは許しがたいとラジオのニュースに腹を立てたことを思い出す。今原爆ドームは整備が行き届き、内外見学者でごった返していた。



ドーム手前水辺には、セーヌ川沿いのカフェのようなオシャレな店があった。戦争の遺跡は観光開発で存在意義さえも変化している。原爆資料館は修学旅行中高生とインバウンド団体客で大混雑、順路も見えぬ暗い展示室は逃げ場を失うのではと不安に駆られ、展示を見るところではなく必死で順路を辿り外に出た。ここでもパニックだった。

### ■安芸の宮島

安芸の宮島にも足を延ばした。ちょうど潮が引いて厳島神社大鳥居まで徒歩到達できた。島内の鹿は人に寄ってくるが「エサをやらないで」の注意だらけ。聞けば宮島の鹿はいつも空腹、餓死もあるとか…。筆者の布袋にも寄ってきた鹿が顔を突っ込んでた。のど飴に反応したらしい。なんだかかわいそうな気がした。

## ●●アーキビストの消息●●機関●個人

2024年3月31日付

■国立国会図書館 吉永元信館長退任

●中村修氏 藤沢市文書館専門員退任

2024年4月1日付

■国立国会図書館第18代館長

倉田敬子氏就任(左写真)。

■藤沢市文書館 館長(専任)猪俣順一氏、

倉塚豊氏(防犯交通安全課へ異動)、利

根一馬氏(館長兼務解除)、宇野淳子氏

(学芸員、会計年度任用職員採用)

●榎原直樹氏 3月末日東京都公文書館退職、4月から葛飾区総務部総務課区政情報係公文書専門員(会計年度任用職員)。全史料協会長事務局業務、千葉県市川市公文書管理アドバイザーで活躍中。

訃報 松下 均氏(元音楽図書館協議会事務局長)

2023年11月17日逝去、享年80。1980年代末から金沢工大セミナーの機会に知己を得た。札幌の藤女子大学でもご縁があった。もう教えを乞うこと叶わず残念無念。ご冥福を祈ります。合掌。



●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆■  
●唐牛伝 敗者の戦後漂流

なぜかこのタイトルが妙に気になってしまっ

て、アマゾン古本で買って読んだ。オビには「500万人の若者を熱狂させた60年安保のカリスマが、何者でもない死を遂げるまで。」「昭和の妖怪“岸信介と対峙し/”聖女樺美智子の十字架を背負い/”三代目山口組組長“田岡一雄”と/”最後の黒幕“田中清玄の寵愛を受け/”思想界の巨人“吉本隆明と共闘し/”不随の病院王“徳田虎雄の参謀になった/全学連元委員長、47年の軌跡。」と刺激的なコピーが並ぶ。その結果、もっと気持ちを揺さぶられてしまった。筆者は60年安保のころは小学生だったから、新聞の見出し



●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●

ぐらしか知らない。その時のリーダーだったという唐牛が、その後活動の表舞台を去りいろんな仕事をして、最後は北海道で漁師になって、47歳の若さでガンでなくなってしまったという伝記だ。掲載された写真を見ると、穏やかな印象のオジサンだ。読み進むうちに、この人が、70年安保の10年前の60年安保のリーダーだったと知った。70年安保と大学紛争に背を向けてきた自分の姿が、突然記憶によみがえってしまい、この本が怖くなった。初めて向き合った唐牛健太郎に呼ばれて読まされたのだろうか。B6判 395+5頁、佐野真一著 単行本 小学館 2016.8.1 発行、1600円+税。

\*蛇足：実は、ハードカバー美本の本書は、古本としての販売価格は1円、送料240円だった。60年安保から60年、その世代の人々が今や90代に手が届こうとしている。当時の「伝説の人物」の伝記が、没後40年の今、いくら古本でも1円とは…。これが現代日本の現役世代が60年安保時代に下した「評価」だろうか。昭和も遠くなりにつれ。

\*\*\*\*\*

●千代子のあしあと●◆▼●◆ ●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポートNo.136 20240615A4判4頁(本誌)

▼会員制メルマガ・ナスの日通信5月号 20240518

\*\*\*\*\*

DJI 国際資料研究所の主な活動

2024年4月1日～2024年6月10日

<執筆>

DJIレポート No.136 20240531 A4判4頁PDF(本誌)  
ナスの日通信5月号 20240518;メルマガ配信

<出講>

5月18日 中央大学「アーカイブ論」東京

<参加>

5月1日 図書館サポートフォーラム賞授賞式、日本教育会館、神田、東京  
5月25-26日 記録管理学会研究大会、広島大学東千田キャンパス

<見学>

4月13日 大相撲藤沢場所 藤沢市民体育館  
5月9日 国立公文書館展示「光る君」、  
5月24日～26日 宮島厳島神社大鳥居、広島県立文書館、広島大学東千田キャンパス、広島平和公園、原爆資料館、原爆ドーム  
6月16日～19日 北海道網走監獄博物館、大空町東藻琴ふるさと資料館、清里町立図書館、斜里町歴史博物館、そば処福住、羅臼町国後島展望塔、等見学  
7月4日 玉川大学教育博物館 カサド楽譜資料閲覧

<その他>

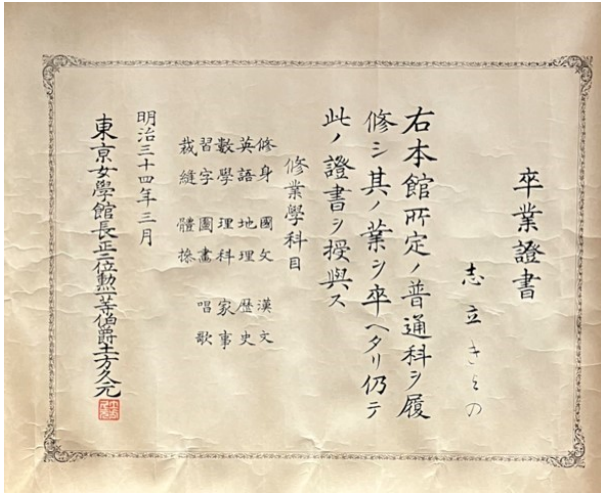
4月1、8、15、22、29日、5月13、20、27日、6月3、10日 ラウラ先生ルーマニア語お稽古 on-line  
4月2日 ノブヨさんと祖母卒業証書巡り LINE80回  
4月3日 ミキアイと東京駅中ランチ  
4月7日 アーカイブの絆 アラビアディナー 鶯谷  
4月9日 樹村房に原稿の下書発送  
4月12日 午後樹村房訪問、原稿今後のまとめ方等

4月13日 大相撲藤沢場所 秋葉体育館 藤沢巡業  
4月14-15日 箱根対岳荘で静養  
4月15日 太平台明和会前会長桐生繁氏通夜  
4月22日 生涯学習部長と面会 藤沢市役所  
4月20日 湊人初単独辻堂訪問、公園トイ苦戦乗切る。  
4月24日、5月8、29日、6月26日 バンちゃん学童開催、1回目は駅から徒歩来宅2回目からは🚗利用  
4月27日 町内会総会「組長班長の仕事」説明  
4月29日 ケアマネさん来宅  
5月8、15、22、29日、6月5、13、20、26日 helper  
5月9日 皇居散策と国立公文書館、国会議事堂(傍聴)のバスツアー、ランチは議員会館食堂!  
5月10日 辻堂市民センター長と面会 藤沢  
5月11日 アマテウ合奏団定期演奏会、藤沢市民会館  
5月12日 大庭バラまつり参加 藤沢  
5月12日 大谷家ガーデンパーティ参加 藤沢  
5月16日 (株)カネカ訪問今年度8-9月 UNHCR ボランティアの支援依頼挨拶  
5月20日～6月10日 DJIレポート No.136 制作  
5月22日 給湯器故障修理来宅  
5月23日 トモコ、モトコ、ノリコさんとランチ、稲毛  
5月28日～ 玉川大学教育博物館所蔵カサド楽譜・カサド楽譜資料調査着手 (Yuki&Yuri)  
6月9日 八雲オーケストラ定期演奏会、中野ゼミナル、東京  
<健康管理>  
4月～6月 医療受診録 辻堂金沢内科クリニック4回、つるしげ歯科3回、マリソル整形外科7回、辻堂南口耳鼻科2回、星野眼科2回、つじ口コマッサージ3回、介護保険ヘルパー5月～週1回1時間来宅

## ■ 卷末随想

### (1) 母校に戻った祖母の卒業証書

母逝去後、遺品整理は弟が担当してくれている。その遺品の中から、祖母の卒業証書が出たと、画像が送られてきた。(写真↓)



この卒業証書には、明治34年3月の日付がある。祖母は明治18年生まれだったから、16歳で卒業した計算だ。何年間の在学だったのかは、この証書だけでは不明。しかし、列記された修業学科目は14科目。具体的には、修身、国文、漢文、英語、地理、歴史、数学、理科、家事、習字、図画、唱歌、裁縫、体操の14科目が列記されている。弟の話ではこれは巻物になっていたから、広げるには霧吹きで水をかけて巻きが戻るのを待ったそうだ。

この卒業証書には明治34年3月と記されている。明治34年といえば、西暦1901年、今から123年も前に、祖母は東京女学館を卒業したとわかる。他方、ネット検索でこの学校には資料館が設けられていることが分かった。連絡先を把握し、原本を手元においている弟にその連絡先を知らせた。後日、弟から連絡があり、この卒業証書は、123年の後に母校に歴史的資料として改めて引き取られることになったと知らされた。有り難いことだと思う。祖母も、誇らしく思っていることだろう。なお、成績評価は記されていない。こうして、祖母の卒業証書はめでたく出身学校の資料室に引き取られた。願わくば、東京女学館が未永く続かんことを、そして祖母の卒業証書がこの先も永く大切に保存してもらえますように。

### (2) 大相撲藤沢場所 巡業

4月13日、大相撲藤沢場所を見に行った。場所は藤沢市秋葉台の藤沢市民体育館、小田急湘南台駅からシャトルバスで20分くらいの、藤沢市の北部にある公営体育館。相撲をナマで見学するのは、初めてなので、結構期待に胸を膨らませて出

かけた。会場に着いたら、大きなお相撲さんがそこら中にいて、土俵は遙か彼方で、取組みは見えなくもないけど、テレビで見るのとは大違い。しかし、力士の皆さんはとてサービス精神旺盛で、こっちをみてニコリ、あっちをみてニコリ、ポーズしてくれたりして、なかなか親しみやすかった。豊昇竜さんが通路脇に立っているのを見かけたけど、私の目の高さが彼の大きなおなかの少し上くらいで、当たり前だけどびっくりした。

### (3) 久しぶりの国立公文書館と国会傍聴

4月半ばのある日、最寄り JR の駅辺を歩いたら、ビラをもらった。それは、地元選出の国会議員が主催する「国会傍聴、皇居散策、国立公文書館見学のバスツアー！」のお誘いだった。アーキビストとしては、国立公文書館見学プログラムは絶対に参加したい。大急ぎで申し込んだ。先着20名にどうにか潜り込めて、5月9日にはめでたくマイクロバスで東京に出かけることになった。皇居の散策は、都心にこんな緑があるのかと改めて認識しつつ、しっかりお土産を入手した。大手門から北詰門まで歩いたら、結構大汗。出たらすぐに懐かしの国立公文書館で、ちょうど「光る君」の展示中。私は新旧憲法（レプリカ）展示を見た。旧友がたまたま出勤ということで、展示ホールで出会い、しばらく立ち話。なんとも懐かしい。もう退職して30年以上の時間が過ぎたのに、旧友との邂逅が実現するとは、思いもよらなかったもので、本当にうれしかった。ここでの土産は何といっても新旧憲法の写真の絵葉書と心に決めて、2セット買い込んだ。

ここからまたマイクロバスで国会議員会館へと移動し、その食堂でランチ。だれかが「ここは早い、高い、まずい」とか言う声が聞こえたが、ま、そんなこともなくおいしいご飯を頂いた。景色の良い食堂だった。そこから国会議事堂までは徒歩移動、衆議院本会議場では、加藤少子化担当大臣が、子供の性被害を避けるために、性犯罪歴のある人は子供にかかわる仕事につかせない、という法案の説明中。私はさっきのランチのおかげでしばらくとうとうしてしまった。まもなく傍聴はおしまい、最後はこの日を設定してくれた議員先生との懇談。参加者からは、政権交代というキーワードが何度も聞こえたのは、ちょっと意外だった。もちろん、ツアー主催の先生は非自民だから、それもありなんだろうな。バスの中での経済の話は駿台の名物講師、今は金を買っておけ、現金、預金はみんなそのうち政府に全部持ってかれま、とのことで、不安に駆られてしまった。懐かしかったり、ワクワクしたり、結構面白い一日でした。(ち)